

一 任務行動の概要

(1) 七月一日午前十時横須賀出港野島埼南東方線、横断観測ヲ實施シ次ニテ大吠埼東南東方線ノ横断観測ヲ實施シ同月十日横須賀ニ入港ス本作業中ハ天候概不平稳ナリシモ煙霧水平線附近ニ柵引キ艦位測定ニ相當ノ障害トナレリ

(2) 七月十八日横須賀出港野島埼南東ヨリ縦断観測ヲ開始ス金華山以北ニ於テハ時々濃霧ノ来襲アリシモ天測可能ニシテ艦位測定ニ支障ナク作業進捗セリ只擇捉島東方ニ於テ約ニ晝夜間相當ノ荒天ニ遭遇セシモ極力作業ヲ繼續シ同月六日予定ノ通り縦断観測及納沙布埼東方線、横断観測ヲ終了シ炭水補給ノタメ釧路ニ入港セリ

録
五

(イ) 七月辛巳日釧路出港海洋一斉調査ニ從事ス釧路
 出港直後ヨリ濃霧未襲シ八月一日暈冠湾東南
 東線ノ作業ヲ開始セシカ引續キ濃霧絶エ間ナク
 漸ク五日午前ニ至リ僅カニ太陽ニ依ル天測ヲ實施
 シ得タルモ此ノ間外力ノ作用殆トク予定ノ如ク
 進歩セリ六日ヨリ南鳥島ウラカスノ線ニ向ケ作業
 ヲ續行ス爾後概ス天候ニ恵マレ海上稍荒レ氣味ナ
 リニモ測量實施可能ナリニテ以テ十六日ウラカス東
 方ノ測矣ヲ結了セシヲ以テ途中音聲測深儀ニ依ル
 測深ヲ實施シツ、小笠原ノ東方海面ヲ通過シテ二十日
 横須賀ニ返港セリ

(ロ) 八月二十日横須賀出港二十日大吠埼東方ノ測矣ニ
 達シ横断觀測ヲ開始ス九月三日ニ同線ヲ終リ正

昭和五年九月 竹井 始

午塩屋埼正東ノ東端測尺ニ至リ新大北岸高ケ
 作業ヲ續行中四日正午頃ヨリ颪風ノ影響ヲ受テ
 荒天トナリタル爲メ作業ヲ中止ニテ折柄金華山沖ニ達
 出中ナリシ颪風ヲ避航セシモ海上風波極々荒ク船機ニ
 故障ヲ生セシヨ以テ應急修理ヲ施シ横須賀ニ返港ス
 ルコトニ決シ八日午前横須賀ニ返港セリ

(水) 横須賀ニ於テ入渠ノ上船装置ノ修理ヲ完成シ九月三
 六日横須賀出港塩屋埼正東ノ残存測尺ニ向テ作
 業ヲ開始シ十九日此ノ線ノ測量作業ヲ終リ金華
 山東方ノ檢流浮標ニ依ル表面流ノ觀測ヲ終了シ
 金華山正東線ノ測量ヲ續行ス十月四日海上稍々
 荒レ氣味ナリシモ此ノ線ヲ終リ鉾埼正東線ノ東
 端測尺ニ達シ荒天ヲ冒シテ作業ヲ繼續ス十月七日

録
一

夕刻鮫埼ノ線ヲ終リ炭水補給ノ為大湊面航
高八日入港セリ

(八) 十月十日大湊ヨリ函館ニ廻航シ休養ノ上同月十四日襟
裳埼東方線ノ作業地ニ向ケ出港 出港直後ヨリ荒天ニ
遭遇セシモ半速カラ以テ難航ヲ續行シ十五日早朝測候ニ
達シ荒天中ニ作業ヲ續行セシ十六日ニ至リ海上益荒
レ来タリ作業ノ實施不可能トナリタル為作業ヲ中
止シ洋上踞蹕ヲナシ天候ノ次復ヲ待チシモ恰モ連續
的ニ襲来スル低氣圧ノ通路ニ當リ荒天打續キ作業
ニ適セス已ムヲ得ズ五個測候ヲ然シ鮫埼ノ東方測線ニ
向ヒ十八日ヨリ作業ヲ開始シ漸次沿岸ニ向ヒツ、
アリシ二十九日ニ至リ種ヶ島附近ヲ通過中、船風襲
来ヲ予期シ作業地ヨリ至近ノ厚岸灣ニ避泊ニ決シ

昭和五年九月 竹井結

(ト) 同日夕刻作業ヲ中止シ二十日午後厚岸ニ假泊ス
 二十日厚岸入港ト殆ト同時ニ風強マリ夜ニ至ルニ從
 ヒ風速益々加ハリ雨サエ降り来タリ尻羽岩脈ヲ越
 テ「うねり」浸入シ碇泊中風速三十五米動揺三十五
 度ニ及ブリ二十三日ニ至リ稍静マリ氣味ナリニテ
 出港セシモ颯風ハ千島東方ニ去リタルモ「シベリア」ニ
 發生セシ「サイクロン」ハ將ニ本艦針路附近ニ進出セシ
 ヲ以テ東南東ノ烈風吹キ募リ作業不可能ナルヲ
 以テ再び厚岸ニ避泊セリ
 二十四日低氣圧ノ名残未ダ盡キザルモ出港ニ決シ
 逆風浪ニ惱惱マサレツ、鯨角沖ノ測長ニ向ヒシカ
 終日縦横動大ニシテ難航ナリシモ二十五日朝遂ニ測
 長ニ達シ風力未ダ衰ハズ加フル程海流中ニ萬難ヲ

海 軍

排シテ作業ヲ繼續シテ六日予定通り作業ヲ終
了スル日一二三〇横須賀ニ旣港セリ

昭和五年九月 竹井 祐

二教育訓練ニ関スル事項

年度初頭ニ於テ計画セシ通り終始一貫作業能力、向上ト軍人精神ノ堅持ニカメタリ

一精神教育

卑調ナル作業ニ從事シ洋中千数日ヲ送ル本艦ノ乗員ニ對シ飽クマデ軍人精神ノ振奮ニカメ堅忍不拔協心協力全力集中ノ標語ノ下ニ淬礪ノ誠ヲ盡サシムル如ク指導サシタリ

(四)明日ノ戦闘ニ即應シ得ル兵術的技能ハ本艦任務ニ兵装上満足ニ實施出来ザリシモ航海運用術ニ極關指揮操縦術ニ於テハ反覆實施セシヲ以テ其ノ進歩向上極メテ顯著ナリ

三修理改造ニ関スル事項

海軍

搭載設備施行
トニ直接中

(1) 測量艇四隻搭載設備ヲ要ス

現在之レヲ有セサルヲ以テ本艦ニ於ケル測量作業ハ單ニ
海洋測量ノミニ限ラレ艦使用上甚ダ不經濟ナリ

(2) 艦士官以上便所改造ヲ要ス

大便所甚シク狹隘ナル爲艦動搖中用便困難ナリ
依リテ同所ヲ擴大スルカ或ハ便器ヲ小型ノモノニ改装
ヲ要ス

(3) 眞水唧筒ヲ電動式ニ改装ヲ要ス

現裝備ノモノハ人力唧筒ナルヲ以テ多大ノ時間ト勞力
トヲ要シ(煮炊用及浴室用眞水ハ毎日別科時間中
水兵部總員ヲ以テ眞水タンクヨリ吸上ゲツ、アリ)作
業上甚ニ教育上甚ニ不利不便ヲ感ジツ、アリ

(4) 艦橋士官室間ニ傳聲管ヲ導クヲ要ス

昭和五年九月 竹井納

本年ノ經驗ニ鑑ミ作業上是非共必要ナリ
（本艦衣測程儀ヲ整備スルヲ要ス）

四、機関ニ関スル事項

（一）主機械

第三次行動ニ於ケル主機械ノ使用時數消費量並ニ故障
缺損等左ノ如ク本艦主機械ハ小故障ハ時ニアルモ
操縦取扱容易ニテ起動頻繁ナル測量艦用機
械トシテ信頼性良好ナルモノト認め

主機械使用時數

右舷二四八一。左舷二四一四。五

起動回數

右舷一七一九。左舷一七九二

重油消費量

一一二、三二。飛

總航程

二七四三。一

<p>重油 航續距離 一〇四哩</p> <p>潤滑油消費量 外部油六三九。之内部油三二七五</p> <p>重油 航對不消費量 外部油五六五。内部油〇二八五</p>	<p>海軍</p>	年月	故障發何所	故障發原因	處置	復旧所要人員	記
		七 一 八	右舷主機機油 運送機油	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足
		八 一 一	右舷主機機油 運送機油	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足
		八 一 二	右舷主機機油 運送機油	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足
		一 〇 一	右舷主機機油 運送機油	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足	機油不足 機油不足

昭和五年九月 竹井納

一、年

第三次行動中ニ於ケル石炭消費量左ノ如ク航海中一晝夜
消費量ハ訓練ノ結果約四五吨程度ニ達ストモ尚
現石炭庫量ニテハ航續日数ニ十日間ニ過ギズ石炭庫量
ニヨリテ航續巨離ヲ左右セラルル現状ナルヲ以テ適當ニ改造
ヲ要ス

在使用時数 一号在九七七 二号在八九九
石炭消費量 三三一・一。吨

一、冷蔵庫及冷却装置

冷却機械ハ先有効ニ作動シ居ルモ七八月、候南洋
附近ニ於テ海水温度攝氏二八・九度ニ達ストモ現在ノ

海軍

冷却機械電動機力量ニ於テハ不足ニ付キ新品ト取換
 マ要スルモノト認ム尚補用品モ是非トモ必要ニテ且同
 電動機ハ音響測深儀ト同時ニ使用ニ得ガレ不便
 リ製氷ノ時間ナク氷ノ貯藏ヲ是非トモ必要ト認ム
 冷却機械使用時数 四三二一。
 炭酸瓦斯消費量 一六。匹

一、ディーゼル発電機並ニ圧搾唧筒
 池貝式五。馬力ディーゼル発電機ハ信頼性大ニテ発電機
 械ハ発電機トミテニ。馬力圧搾唧筒トミテニ。馬力各
 同時ニ運転スルヲ得。 発電機ヲ運転シ一ニ。ア。ア
 マ発電機ニ起動空氣モ同時ニ採取得ル可能性アリ
 発電機使用時数 八。七一四。

昭和五年九月 竹井納

圧機用筒使用時数 一三四一。

一、真水消費量

航海中消費量一晝夜五瓩ニシテ真水タラシク總量

一五。瓩ニテハ三十日間ヲ要フルニ過ズ一晝夜約一。瓩

採取ニ得ル蒸溜器ニ改造ヲ要ス

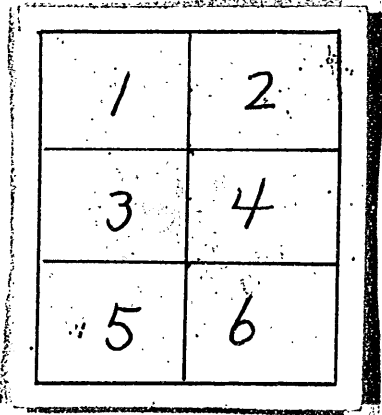
真水使用量 六。八瓩

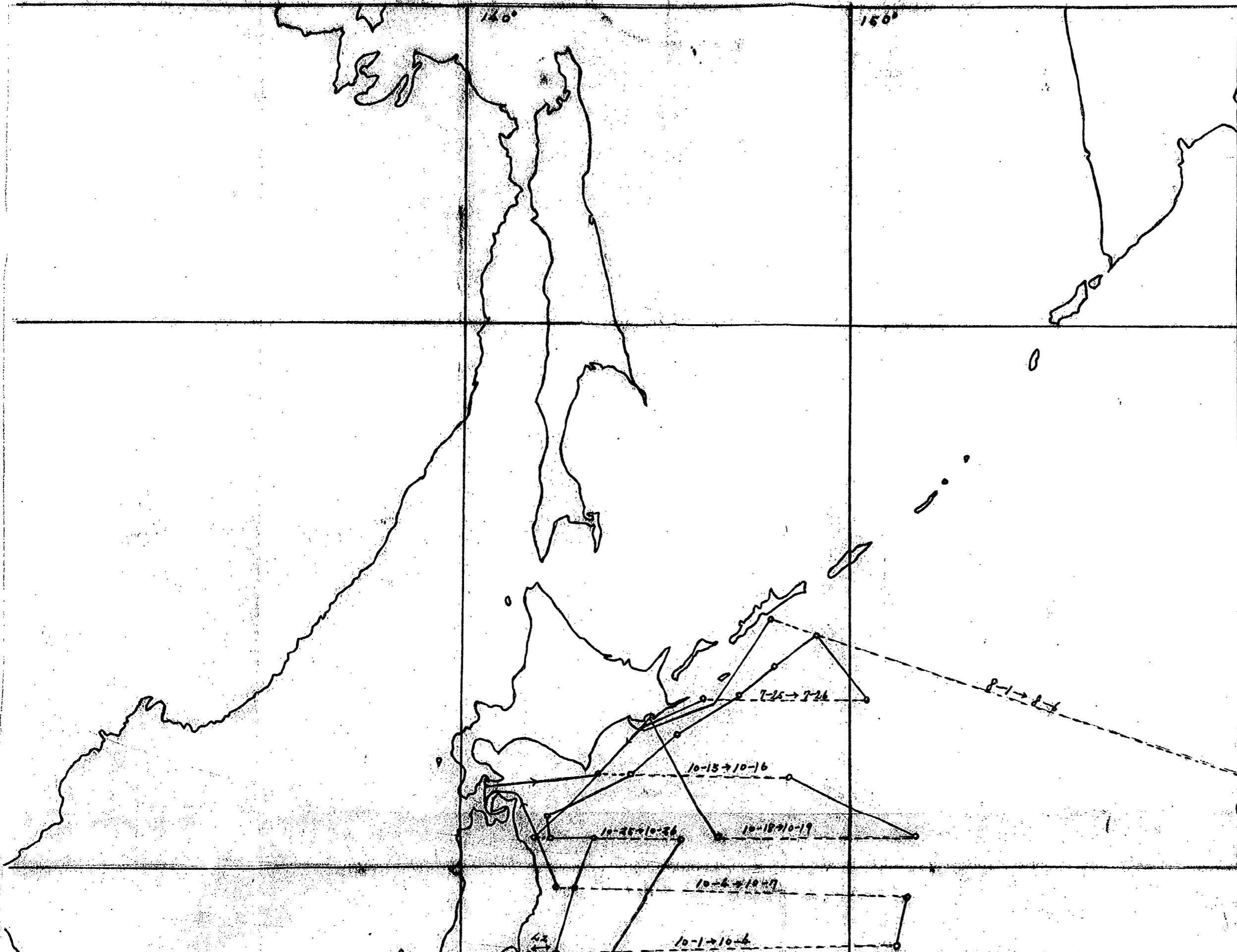
一、其他補助機械

故障缺損ナク信頼性大ナリ

毎
日

分割撮影ターゲット

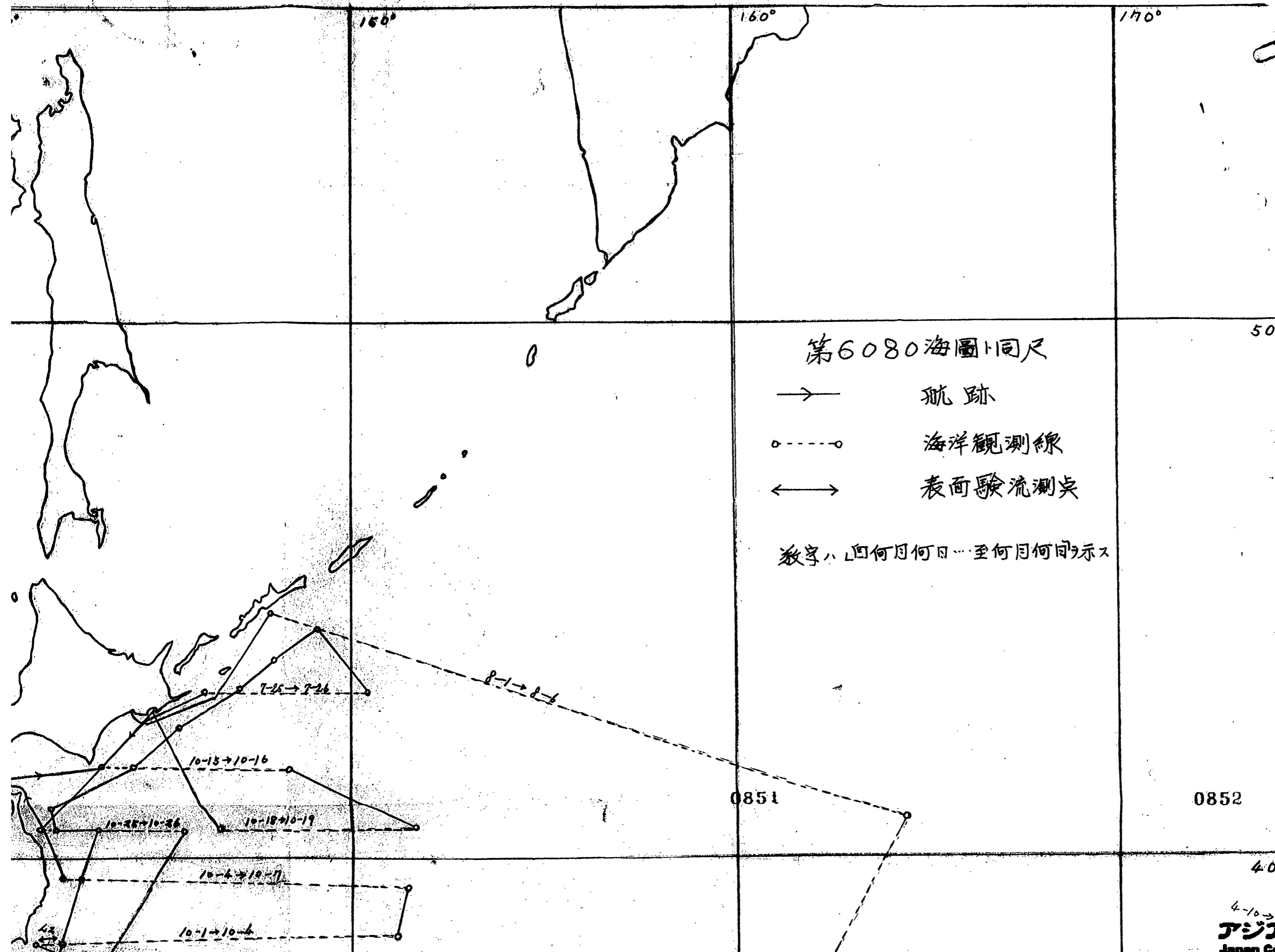
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを証明する。 13 年 9 月 11 日	



第6080海圖同

- 航跡
- 海洋観測
- ←→ 表面駿流

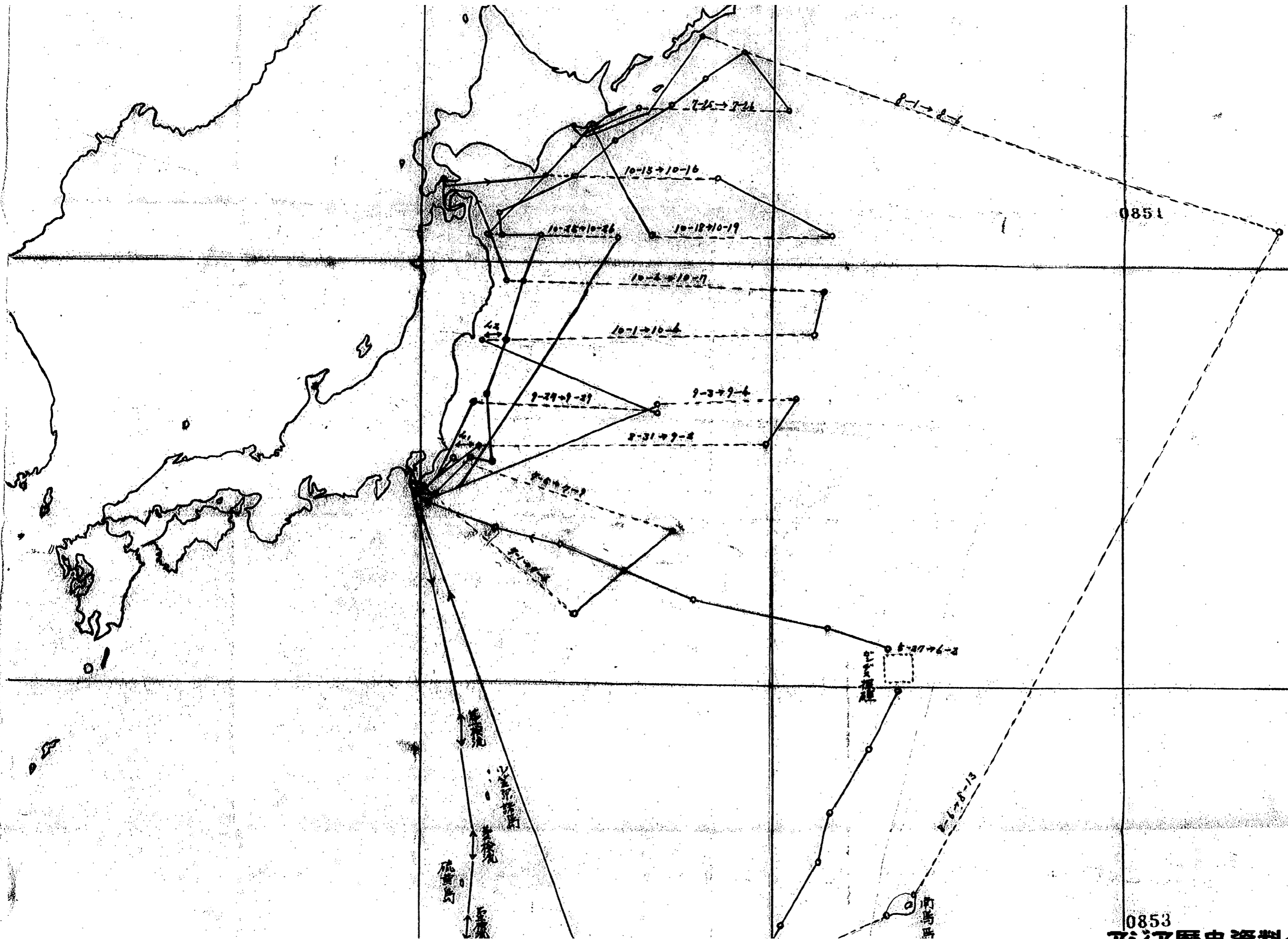
数字、○何月何日…至何日



第6080海圖1同尺

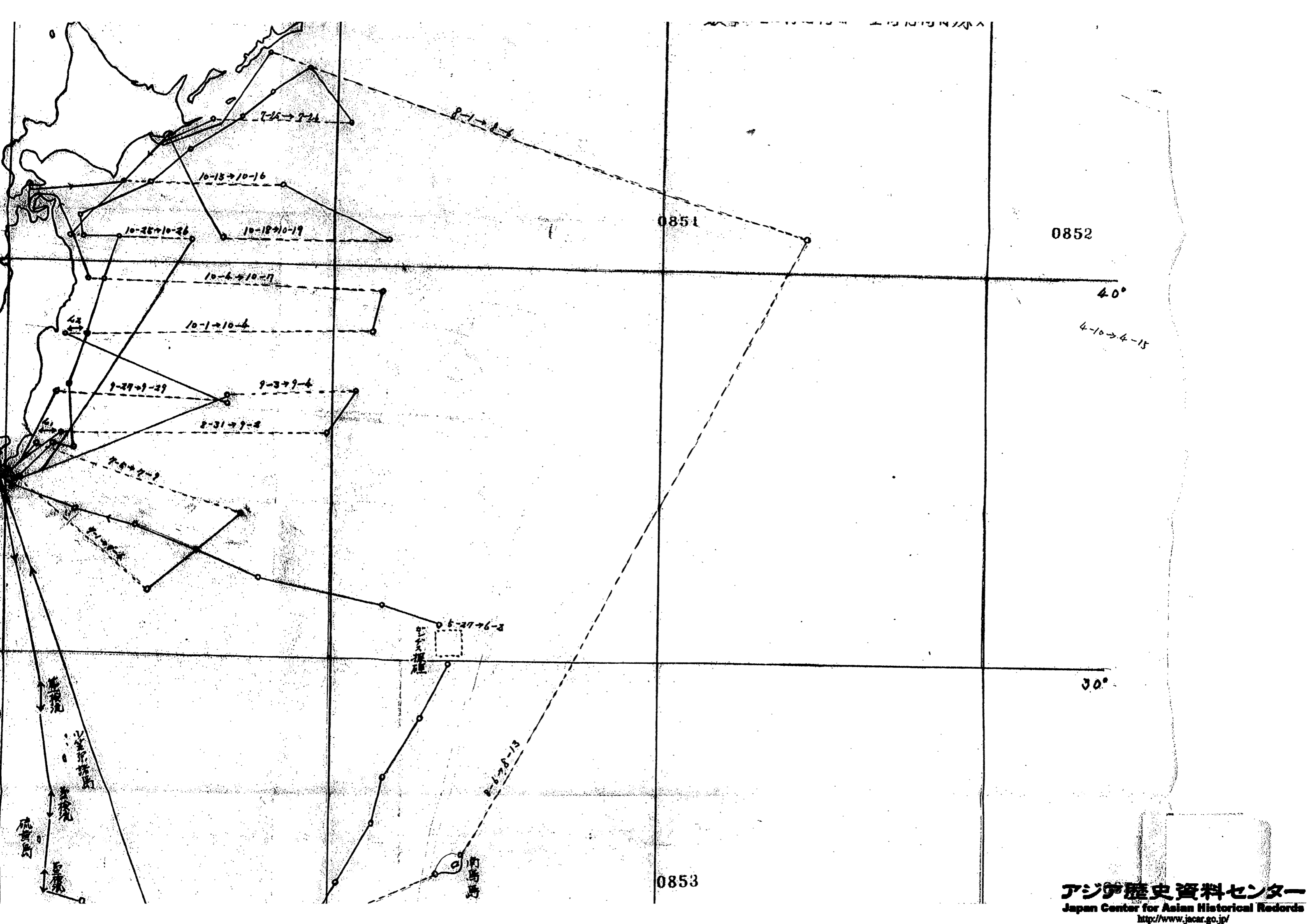
- 航跡
- 海洋観測線
- ↔ 表面駿流測点

数字ハ 西何月何日…至何月何日ヲ示ス



0851

0853



0852

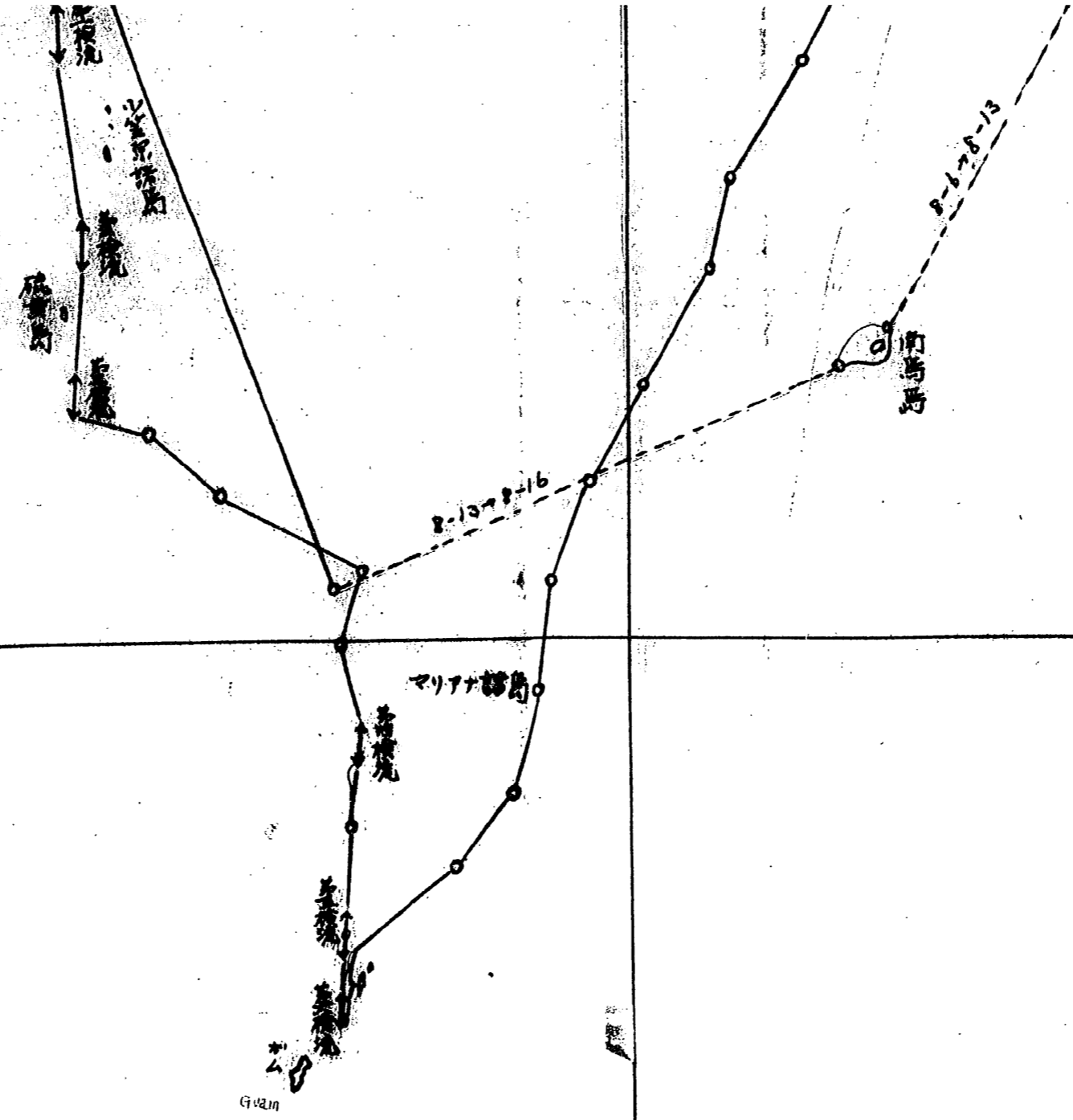
40°

4-10→4-15

0851

30°

0853



0853

0855

昭和八年九月軍艦駒橋月次報告
一、経過概要

前月ヨリ引キ續キ大吠埼正東線ノ採水検査海気象
観測ヲ續行シ三日正午塩屋埼正東ノ東端測尺ニ達
シ漸次沿岸ニ向ケ作業ヲ續行中四日正午頃ヨリ咆
風ノ影響ヲ受ケ荒天トナリタル爲作業ヲ中止シテ折柄
金華山沖ニ進出中ナリシ咆風ヲ避航セシモ海上風波極メテ
荒ク舵機ニ故障ヲ生セシヲ以テ應急修理ヲ施シ横須賀
ニ帰港スルコトニ決シ八日午前九時四十五分横須賀ニ入港セリ
在港中入渠ノ上修理ヲ完成シ二十六日出港塩屋埼正東ノ
残存測尺ニ向ヒ作業ヲ開始シ二十九日ヲ以テ此ノ線ノ測量
作業ヲ終了シ金華山東方ノ検流浮標線ニ向ヒ三十日
ヨリ來月ニ引キ續キ表面流ノ測定ニ従事ス

毎
軍

二、炭水消費量及患者一覽表

(1) 燃料消費量

石炭 五四・七五 吨

重油 二五・五八 吨

(2) 清水消費量

一四八 吨

(3) 患者一覽表

	患者	受療患者	
延員数	休業患者	一五	三〇
	軽業患者	経過日数	
	就業患者	三十日	

昭和五年九月 竹井 記

1980

二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
晴	晴	晴	少雨 夕夜アリ	少雨 夕夜アリ	曇	曇	半	晴	雨	晴	半	曇
和	和	和			和雨	和	和晴	和	和曇	和	和晴	和雨
							精須賀					
休業(武技体技)	遷移式休業(武技体技)	糧食搭載	炭水搭載	糧食搭載	船体兵器機関手入	出帆	紀念式休業			船体兵器機関手入		入渠

昭和五十九年 竹井 記

海軍

淀機密第一五號白

昭和八年四月十四日 張順

淀艦長



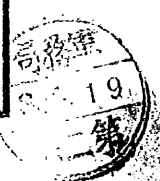
海軍省軍務局長 敬

提 命

一、軍艦淀測量任務報告第一 (自就役準備) 一冊

(別紙添)

(注)



海軍

昭和八年度

軍艦淀測量任務報告第一

自就役準備
至四月六日

軍艦淀

目次

- 第一 任務行動概要
- 第二 教育訓練之関心事項
- 第三 後務定員修理改造之関心事項
- 第四 航海測量之関心事項
- 第五 運用之関心事項
- 第六 通信之関心事項
- 第七 機関之関心事項
- 第八 工作之関心事項
- 第九 醫務衛生之関心事項
- 第十 會計總括之関心事項
- 第十一 雜件
- 第十二 一般所見

(尾)

第一 任務行動の概要

一、三月一日第二遣外艦隊ニ編入セラレ同月二日吳發同大日旅順着翌七日旅艦千戸ト會シ第二遣外艦隊司令官ノ巡視ヲ受テ同司令官並ニ旅順魏子富方面ノ必要ナル官公署等ニ就キ本艦任務達成上ハ必要ナル資料ノ蒐集ヲ行フト共ニ各種ノ援助協力ニ関レ適當ニ意志ノ疎通ヲ圖リ三月中旬遼東海灣海氷調査ヲ行ヒ更ニ同月下旬ヨリ四月上旬ニ至リ前後ニ回遼東方面ニ行動シ、遼東廳警備船海洋丸ノ投カテ得本艦内火艇ヲ以テ大王家島石城島長子島海洋島南尖角及青堆子南西角方面ヲ視察シ測量基地調査ヲ行ヒ大王家島北岸ヲ甲乙兩班基地ニ選定シ作業ノ進捗ニ伴ヒ逐次南尖角海洋島長子島及葫芦島(石鹿島西方)ニ前進基地ヲ設置スルトニ決定セリ(別圖參照)

二、右ノ外旅順在泊期間ヲ利用シテ遼東廳、遼東抄在勤武官駐滿海軍部、遼東軍司令部、獨立守備隊司令部、安東領事館同海邊警察隊、營口領事館同海邊警察隊、魏子富關係各部ヲ河縣、高島並ニ大連關係各部ヲ訪問シ本艦任務達成上必要ナル打合ヲシテ更ニ飛行機ノ快カニ關シテハ神威ト快議ヲ進シ差當

リ四月中旬ヨリ作業ヲ開始スヘキ遼東方面測量実施ノ爲全ク
期を爲す要ナル細目ニ當リ用滿タル決定ヲ遂ケタリ

第二 教育訓練ニ關スル事項

十二月、一月、二月ハ就役準備トシテ船洋兵器等ノ保存整備ニ全力
ヲ傾倒シテ從事シ別科時同ニ常時保存手入ニ充當セリ 8/10定
員ニテ此間冬季休暇アリ、一月下旬より定變更ノ内報ニヨリ就
役期日ヲ一ヶ月早メラルコトナリシ爲一月十一日以降海兵團ヲ
水兵臨時使役七名ノ派遣ヲ受ケ作業ノ進捗ニ努力シ(機附科ハ
昨年慶多予備艦編入當時より十乃至十五名ノ臨時使役ヲ受
ケツアリタリ)右ノ如キ状態故教育訓練トシテハ就役前ハ定例ノ
精神教育、諸兵操、防火教練ノ程度ヲ出ツル能ハズ只保存整
備ニ於テノミ十全ノ教育効果ヲ收メ得タリ

二月下旬自試運轉ニ出動ノ機ヲ捉ヘ戦闘部署艦海中ノ各種
保安部署教練ヲ實施シ之ヲ始メトシ三月南方面行動中機
會アル毎ニ各種部署教練並ニ配置教育ヲ實施シ戦闘並ニ保
安ニ關スル部署教練一通リヲ實施シ得タリ高測量班掩護ノ
警戒隊員及二進命令ニ依リ特別編成陸戰隊ノ速成教育ヲ爲

六、海軍学校卒業生ニシテ難ク排シテ陸軍教練警備要務ノ教育ヲ
行ヒ三月二十九日野外演習(晝夜同)ノ実施ヲ以テ一段落ヲ告グルニ
至リ全艦ヲ通シ本年夏(任務ニ必要ナル各科配置教育)終止
部署教育ノ基礎教育ヲ終了シ爾後ハ之ガ反覆演練ヲ餘
スニミナリ

第三 役務定員修理改造ニ関スル事項

一 役務並定員(所見欄参照)

昭和八年一月末日迄第二予備艦(%)定員)

二月一日 第一予備艦(全定員)

三月一日 第二遣外艦隊ニ編入(臨時増置員ヲ置カレ)

二 修理改造(除機関ニ係事項)

予備艦隊修繕装兵器ノ修理改造ハ前年七月十五日迄機関部第
五十九號ヲ以テ第二遣外艦隊司令官ニ提出シ次年度就役前ハ
絶工事ニ関スル意見具申ニ網羅スル事項及其後各部發見
修理改造等ニシテ何レモ逐次着手概テ所希通り達成セシメリ
船体修繕装ハ其ノ大部分ヲ占ム役務予定ノ繰上變更ニ依リ其
ノ完了ヲ懸念セシタルモ一月中旬入渠船底塗替並渠中修理

完了レ二月初旬ヨリ一履修理ニ着テ之亦殆ト予定ノ工事ヲ
完了レ二月二十日ヲ以テ工故ノ年ヲ離ルニ至レリ三三鋪鎖衰朽
ニ依ル交換ハ適當ナル交換品ナキ為止ムヲ得ズ從來ノモノ不良部
修理ニ止メ使用レソアリ修理状況概表ヲ示セバ如シ

主管別	六	船体機装	備考
砲艦科	五〇 (四二)	五 (三)	指孤外ハ請求件数ヲ示レ
水雷科	一 (一一)	一 (一)	ヲ示ス
航海科	四八 (四四)	二〇 (一七)	指孤内ハ施行件数ヲ示ス
運用科	二〇 (二〇)	一四 (一二)	
通信科	二〇 (二〇)	二 (一)	
主計科	五 (五)	五 (五)	
軍醫科	四 (四)	四 (四)	
合計	二七九 (二〇六)	一七八 (一五六)	

概不古ノ状況ヲ以テ就復シ約一ヶ月ヲ經過シタル今月特ニ修理改
造ヲ要スルモノヲ認カズ現状ヲ以テ推移セバ先ツ存年層係務修動
ニ對シテ支障ナキモノト信ズ

第四 航海測量之関心事項

月		日		出入港時	出入港名	使用速力	航程(哩)	誌
三	二	一	五	〇	吳	九節	二二四・二	吳發後順之向ヲ 一三四五連瀬ノ戸通過 一九〇カ諸島水道通過 二二五カ山打老ヲ認メ二二四カ 那崎灯台之向ヲ
三	三	〇	五	〇	那崎	九節	一四一・二	那崎灯台南西二層東三九五 米ニ發洩
四	四	〇	八	〇	那崎	九節	一九四・八	一九〇カ勿水道附近ヨリ五日 二三〇カ東高角ノ嶺ニ達平均 十五米ノ北風速丈時ノ雪ヲ伴フ 一八・五速力十節トス
六	一	一	〇	〇	旅順	十節	九七・二	一九四五カ勿水道通過
一	一	〇	七	〇	旅順	九節	九一・〇	測量船ヨリ水調査ノ為メ 山海關ノ向ヲ認
一	三	一	七	〇	養皇島	九節	四九・〇	午後五時養皇島灯台南西二 層ニ至リ二層ノ平ノカ所ニ發洩 燈台ノ位置ニ至リ平ノカ所ニ發洩 水調査
一	四	一	五	〇	旅順	九節	六六・四	一九〇カ水調査ノ向ヲ連東港ニ向 三三〇カ水調査ノ向ヲ連東港ニ向 清水面ノ水ノ深サヲ認
一	五	一	〇	〇	旅順	十節	三四・〇	一九〇カ吹雪來襲

六	五	四	三	二	二	二	二	一	一
一〇 二六 四三 〇〇	一七 一八	一一 一五 〇	一一 一七	〇 七 三 〇	一〇 八 四 五 二〇	一〇 八 五 三 〇	〇〇 八 七 三 〇 〇	二一 一〇 〇 〇	一〇 六 五 〇
同 張 順 港 右 着	葫蘆島 着	大孤山 沖着	大孤山 沖着	同 右 着	同 右 着	同 右 着	同 右 着	同 右 着	同 右 着
十 節	十 節			九 節	九 節	七 節	十 節	九 節	九 節
六 六 一		六 一 三		五 五 五	二 〇 七	七 一 九		九 九 二	五 五 九
	魚 籠 二 魚 網 P 相 當 路 ヲ	青 堆 子 南 西 角 方 向 調 査 一 三 五 五 長 山 水 道 入 リ	南 尖 角 測 量 地 調 査 東 緯 一 二 三 五 二 〇 二 分	大 孤 山 沖 測 量 地 調 査 北 緯 三 九 五 三 〇 分	海 洋 島 測 量 地 調 査	長 子 島 測 量 地 調 査 二 四 三 〇 濃 原 島 測 量 地 調 査		年 後 九 時 張 順 港 外 泊	測 量 地 調 査 多 ク 大 三 家 島 測 量 地 調 査 一 三 五 五 長 山 水 道 入 リ

第五 運用ニ関スル事項

一 就役準備

船体機装ノ保存整備ニ全カヲ盡シテニ内外底ノ手入ニ最宜ノ努
力ヲ拂ヒタリ

二 測量艇ノ運搬

兵港務部ニ預入中ノ水路部測量艇ニ是二月二十七日搭載三月二十日
大長山島ニ陸揚シ同地警備官吏ニ保管ヲ委託ス

三 船体防害施設

各短艇^{カビット}ト全部ヲ兵船港前毛布及着綿ヲ以テ被覆シ三月三十一
五日豫順在泊中撤去ス

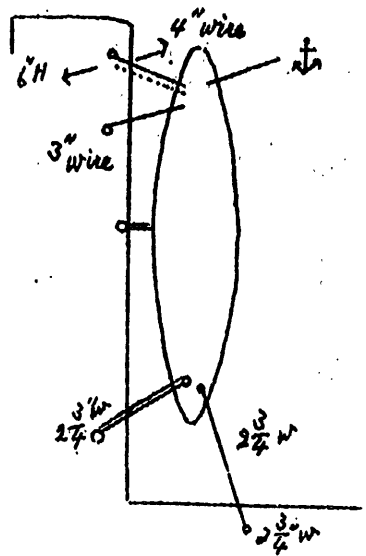
四 氷原航行ニ依ル船体異状

渤海灣海水調査中氷原航行中相當ノ震動ヲ受ケタルモ又ナル影
響ナク^ト前部清水タンク外板底部ニ若干ノ弛緩シ生レ海水毎時約
五^五ノ浸水ヲ發見ス三月二十四日乃至四月一日豫順在泊中セメント
増塗ヲ行ヒ應急手當ヲ施ス

五 繫留用綱索ニ就テ

本艦ハ豫順在泊中東港西岸横付ヲ立止メテラレタリ其ノ繫留綱索^留
ノ如シ

而レテ前部ハ四吋ワイヤ及鉤鎖ヲ使用スルヲ以テ冬季強吹ル偏北風ニ對シ
 テモ先ツ安心シ得ルモ艦尾繫留索ハ二吋 $\frac{3}{4}$ ワイヤー一系ヲ以テ右圖ノ如ク
 繫留シタル為テ艦尾部ヨリノ強風ニ對シ(四月一日風速十 $\frac{3}{4}$ 米)甚
 カニキ緊張ヲ加ヘ不安ナリ之ガ増繩トシテ前部六吋ワイヤー後部ニ
 移動セシムル法ヲ行フ外他ニ適當ナル綱索ヲ有セズ將來ハ後部繫留
 索ハ三吋半乃至四吋ト交換ス可トス



第六 通信ノ関スル事項

時局並ニ任務ニ鑑ミ本艦固有兵器ノ外ニM式移動無線電信機
 機三台TM式短移動無線電信機一台TM式輕便無線電信機
 二台ヲ準備シ來リ測量並ニ警備任務上通信連絡ニ万全ヲ期ス
 而レテ三月是地調査中ハ第二遣外艦隊ノ通信系ニ入り時局ノ推移

ト匪賊ノ情况調査ニ努メ四月ヨリハ旅順通信系ノ入り測量作業準備及各部連絡ニ遺漏ナキヲ期シタリ又三月是地調査ニハ丁M式輕便無線電信機ヲ以テ本艦トノ連絡ニ當リ、各部共月滑ニ戻施セリ

尚周東抄警備船陸上警察関係無線電信所及井中線備所并各無線線羅針局ハ波長六。〇乃至八。〇米ナルヲ以テ本艦ノ任務ニ鑑ミ一號無線電話機増設ノ必要ヲ痛感セリ又丁M式輕便無線電信機用乾電池ハ使用長期ニ亘ルトキハ使用不能ニ至ルニツキ乾電池ノ代用トシテ小型ニ次電池ノ増設ヲ要スモアリ

第七 機關ノ廢スル事項

就役準備 自昭和七年十月中旬至昭和八年二月下旬

(一) 船中兵器、機關ノ整備

本艦ハ昭和二年十月官房機密第一二二三號ニ依リ同年ヨリ向フ五ヶ年間測量任務ニ服セシムルヲ最大速力ト五節ヲ限度トシテ各部ノ修理ヲ施行シアリレガ本期限モ昭和七年度ヲ以テ終了セリ從ツテ各部ノ衰朽甚シカリレシヲ以テ共海軍工廠ト協カレ鋭意之レカ修理ヲ施行シ二月三十日ヲ以テ完了セルヲ以テ三月三十日四月一兩

日ニ亙リ試運転(最大速力十四節)ヲ施行セシメ結果良好ニシテ
各部ノ状況ヲ充分確認スルヲ得タリ
就復準備トシテ実施セシメ主要修理作業次ノ如シ

(1) 機械部

両舷主機械リンク装置陸揚總分解調整

両舷主機械滑弁調整

右舷主機機操縦弁摺合並水压試験

一三三四号送水唧筒陸揚總分解調整

一三三三号消防唧筒陸揚總分解調整

一三三二号抽氣唧筒滑弁調整

一三三二号蒸化器邪磨板改造

一三三二号蒸溜器改造(力量五匹ノモノヲ十五匹ノモノニ)

一三三二号通風機械陸揚總分解調整

一三三四号復水器管掃除水压試験並衝帶調整

(2) 缶部

各缶々水降路管二三本調整

各缶々下列管一八本調整

各缶内煉瓦積換

長官

職員

同

同

同

同

同

同

同

同

同

船工

同

同

各石炭庫側壁並底鉸穿孔部修理

前部重油タンク(清水タンク代用)隔壁穿孔部修理

各石炭庫積入口穿孔部修理

(3) 電機補機部

各色室具灯電路張換

配電盤より無線用交流機に至る電路張換

各發電機より配電盤に至る電路張換

一、二号發電機機械分解調整

一号冷却機機械分解調整

濃塩水管一部換装並水压試験

(二) 燃料用品具その他準備

三月二月迄倉庫前ニ於テ左記ノ通り搭載セリ

(1) 燃料

行動用燃料 (一種煉炭 二〇〇吨 (満載))

普通揮發油並ニ号石油三月末迄一分

平常用燃料 二種塊炭 五〇吨 (満載)

(2) 行動用消耗品 三月末迄一分

(3) 一般用消耗品 約九ヶ月分

出工数

同

出工数

同

出工数

出工数

同

(4) 兵器消耗品

八ヶ月分

右ノ外遼東海灣方面行動中必要ナル左記物件ヲ備用定数

外搭載子セリ

(1) 車上送風機

一三名

(2) 燈

炉(兵員室用)

二組

(三) 防寒装置ノ実施

三月二日島台港前左記の箇所ニ防寒装置ヲ施行ス。本行
動中最低温度ハ上甲板零下十六度海水(復水器入口)零下
ヲ示セリ

(1) サイレント蒸氣管

(2) 揚艇機械蒸氣管並排氣管

ニ 就役後ノ各部現状其他 昭和八年三月一日
至昭和八年四月六日

(一) 船体兵器機関ノ現状

就役準備トシテ前記ノ如ク兵器並艦員快力ノ上各部徹底
的保存整備ヲ施行セルヲ就役後ノ運轉状況一般ニ良好ナリ
就役後故障セルニテ故障並保存整備作業次ノ如ク

両舷高压滑頭並曲軸裏金遊隙過大ニ付調整

左舷高压滑座遊隙過大ニ付挿金挿入

三、所見

(一) 船体兵器機関等ニ各部着レク衰朽シタルモ本朝各部ノ運轉狀況ヲ判断スルニ本年年中最大速力十五節ヲ限ラシテ測量並警備任務達成上些ノ不安ヲ感ヒサルモト認ム

(二) 本艦蒸化蒸溜装置ハ從來力量不足ノタメ任務遂行上着々不安ヲ感シ居タルモ今蒸化器ハ種廢板ヲ改造シ蒸溜器ハ力量五匹ノモノヲ十五匹ノモノニ改装セル成績極メテ良好ニシテ一次蒸氣壓力一〇ト一五新ニテ一晝夜各蒸共一〇一五匹ノ蒸溜量ヲ得任務遂行上些ノ不安ヲ感ヒサルニ至レリ

真水	品								
	雑用水	飲料水	在船水	綿布	糸角	五号外部硬油	一号外部硬油	一号内部硬油	綿布
			純		新			立	
	六二〇	二二七	四〇一	一八	二〇〇	一八	六	二二四	〇
			一八七一						二〇〇
			一八七一						二〇〇
			一九一	二五	四五		五	五	
			一九一	二五	四五		五	五	
			三六一	一五五	一五五	一八	五五	一九	二〇〇

蒸化器ノ水蒸氣天
蒸溜器ノ蒸溜液

第八 工作ニ関スル事項

一 就役準備

自昭和七年十月下旬
至昭和八年二月下旬

(一) 工作機械並器具ノ整備

就役準備トシテ工作機械並器具ノ整備ヲ実施スルト共ニ新ニ制定セラレタル「アセテレン」瓦斯熔接器及移動電動鑽機各一基ヲ整備セリ

(二) 需品並修理用材料ノ準備

三月吳淞港前ニ於テ左記ノ通り搭載セリ

一般用消耗品 ハヶ月分

工業修理用材料 ハヶ月分

(三) 緊急工事ニ對スル規定事項

遠隔ノ地ニ於テ行動スル艦ハ緊急工事(戦闘、航海、保安上絶對ニ必要ニシテ)ニ對シテ整備ノ置クヲ要スルモノシテ規程ノ手續ニ依リ實施スルモノトシテ工事ノ進捗ヲ阻害シテ任務遂行上不便ヲ感スルヲ以テ本件ニ關シテ海軍ニ對シテ長官ノ協議ニ依リ長官ノ認許ヲ受ケテ是ノ後第四九九號(一)四(昭和八年二月十五日)ノ通り緊急工業實施ニ對スル簡便ナル方法ヲ協定セリ

二 就役後ノ各部隊現狀其他

(一) 本艦各部衰朽著シキヲ以テ全馬本具工業共ニ工作件数ハ

甚シク多敷ナルモ常ニ全カヲ盡シ各部ノ請求ニハ遺憾ナク之ニ應ジ願ル順調ニ経過シ居レリ

(二) 今般新ニ制定搭載機カ、アセクレン瓦斯燃接器並移動電動鑽棟機械ハ之ヲ使用ス機曾多ク艦内工作能率ヲ著シク増進シ居レリ

第九 醫務衛生ニ関ス事項

一 公港前及公港後実施スル保健衛生諸事項

(一) 乗員ノ補充及撰擇

本艦三月一日附第二遣外艦隊ニ編入トシ其時乗員総員ニ對シ慢性呼吸器系疾患並消化器系疾患脚氣等ノ既往症ヲ有スル者及身體虚弱ニシテ本艦任務ニ不適者撰擇

一ノ目的ヲ以テ嚴密ナル身體検査ヲ施行スルト共ニ新ニ本艦ニ臨時増置員等四四名ヲ對シ嚴重ニ身體検査ヲ行ヒ其結果定員中五名臨時増置員中一名計六名ノ不適者ヲ發見シ直ニ退艦交代セシメ以テ重大ナル任務ヲ完シ遂行セシメト期セリ

(一)

診察及醫務

本艦就任と同時に軍醫科士官一名看護員二名(下士官一名)臨時増置ヲ見之旨ハ主として陸上測量班ニ附随セシム

(二)

保健康生並防疫事項

(1) 換便

月例疾病検査ノ際比較的自體衰弱ノ徴アル者ヲ登記シ呼吸器疾患ノ豫察並換便(虫垂)ヲ施行レシテアリ。高蒸炊員及士官室准士官室從各ニ對シテハ總員換便施行ノ目的ヲ以テ周下準備レシテアリ

(2)

性病豫防

性病豫防ニ對シテハ軍醫長衛生講話ヲ行ヒ各自ノ自割心ヲ喚起セシムル共ニ予防手段ヲ実行セシムルヲ毎日上陸毎ニ豫防クリーム及ゴンドムヲ携帶セシメ成績頗ル良好ナリ

(3)

三種混合豫防注射

來月下旬施行ノ豫定

(4)

種痘

公動前二月二十六日ヨリ五月一日ニ亘リ總員ニ對シテ施行

善感者一人

(ホ) 衛生講話

出勤後総員ニ對シ性病及傳染病豫防ニ就テ衛生講話ヲ行ヒ各自ノ衛生思想ノ向上ニ努メタリ高倉室從兵ニ對シ一般の衛生ニシテ講話レ衛生的觀念ヲ喚起セシム
赤痢豫防注射

(ハ)

出勤前ニ回ニ分テ(第一回、五第ニ回、)総員ニ對シ施行ス異常反應ヲ呈スル者モ

(ト)

嚔瘡検査

去月初メニ當リ肺結核患者一名(概園科下志原)發生セルヲ以テ本體乘員總員ニ對シ換痰ノ目的ニ依リ三月中旬ヨリ着手シ目下施行中

(チ)

齒科治療ニ就テ

例年齒科患者多發トシ鑑ミ今年ハ特ニ齒科治療ニ要テ諸器械ヲ整備ス

(リ)

脚氣豫防対策

脚氣病發生原因ニ食餌方面ニ對シ至計科ト協力シ且多額ノ脚氣劑ヲ積込ミタリ

(2) 防蟻防蚊ニ對スル準備

主計科ニ於テ之ガ準備シテモリ

二 治療品ノ補充

治療品ハ年額一ケ年分ヲ搭載モ外例年ノ本股行動ニ鑑ミ更ニ亦事變ニ對シテ要ナル規定外及定数外ノ治療品ヲ搭載ス

三 測量基地衛生調査状況

(1) 今期行動中調査モ是地ハ林家屯、金敏、長子島、海洋島、南尖子、孫家屯ニテ島民ノ大部分ハ支那人ナリ、モトモト漁業ニ從事シ衛生思想ニ乏シク日常ノ生活低級ナリ、島内ニハ風土病等特別ノ疾病ナキモ醫療機關ナク、四季シ通ジ消化器系、傳染病散發シ衛生状況ハ一般ニ不良ナリ糧食及生糧品ノ生産ハ僅少ニテ漸ク島民ノ生活ヲ満足スニ適ズ之ガ補給ハ全ク不能ナリ島内數箇所ニ井水アルモ水深淺ク周圍不潔ニテ水質亦不良ナリ一箇所ヲ除キ全ク飲料ニ適セズ

(2) 横水取績

月	日	場所	種類	清濁	臭味	反應	コロール	石灰	フミン	砒素	亞砒素	毒物	砒酸	判定
三	二	林家屯	井水	白濁	臭味	中性	三。四	少量	ナシ	少量	ナシ	少量	中量	飲料不適

計					
		一七	一六	九	四

(二) 具ノ他ノ衛生事項
 (三) 測量取上

公動後氣候ノ激變ニ因リ胸膜炎ニ、肺結核ハ發生セリ
 依テ直ニ旅順艦隊病院ニ委託入院セシメタリ之ノ外虫媒病
 起災一名發生セリ以テ該病院ニ入院セシム

性病患者ハ四名共ニテ惟患シ腐地ニ於テ發病セシメテ
 内一名ハ胸膜炎併發セルヲ以テ特務船醫戸ニ便乗セシメ是病
 ニ送院セリ、腐方面ノ陸上衛生ニ鑑ミ艦内消毒内規ヲ作製
 シ食器消毒具ノ他諸消毒ニ関ル事項ヲ定メ之ガ實効ヲ
 計リ傳染病豫防ニ對シ万全ヲ期シツアリ具ノ他特記スヘキ
 ノトナク一般ニ衛生状況ハ良好ナリ

第十 會計経費ニ関スル事項

一 金銭會計

昭和八年三月一日附ヲ以テ主計長ハ水路部経費資金前渡

官吏トナル

(一) 経費